

長崎の林業

小曽根星堂書



海風等から地域を守る海岸防災林（壱岐市）

9

目次

● 林政だより	農林業・農山村地域の暮らしと命を守る治山事業 ～台風・大雨などの災害に備えよう～…………… 2～3
● 特集記事	人との出会いが導いた移住。山から始まる、新しい地域づくり 井石森の利活用研究会 城後 光さん…………… 4～5
● 林業普及だより	全農乾椎茸品評会 JAつしま団体準優勝！！…………… 6
● 地方だより・五島	五島産材が支える地域づくり…………… 7
● 地方だより・県央	「木の駅たかき」10年間の取組について…………… 8
● 林業団体情報	林業事業体へ人材育成プログラムに基づく研修会を開催しました…………… 9
● センターだより	画像診断によるアラゲキクラゲ白色突然変異体の色度評価手法…………… 10
● イベント情報・島原	南島原イオンの里山「育樹祭」…………… 11
● 対話で巡る長崎の巨樹巨木	高仏のタブノキ ～地域の歴史を見守る、個性豊かな巨樹～…………… 12

「長崎の林業」は、
ながさき森林環境
税を活用して発行
しています。



2026
No.832

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の
取組についてはこちら→



森林ボランティアに
興味のある方は
こちら→



長崎県林政課の公式SNS

林業の魅力を発信中！

いいね！フォローで応援してください♪



Facebook

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」はこちらから
ご覧いただけます→



長崎県の林業担い手の確保・育成の
一環として、長崎県林政課のSNSで
長崎県の林業の魅力を発信しています。

←このアイコンが目印です！



Instagram

林政だより

農林業・農山村地域の暮らしと命を守る治山事業 ～台風・大雨などの災害に備えよう～



南松浦郡 新上五島町 築地地区（治山事業施工事例）

はじめに

近年、線状降水帯や台風の発生などによる局地的な集中豪雨が頻発する傾向が高まり、これまでにない激甚な災害が発生しやすい状況にあります。

県内においても、「令和2年7月豪雨」「令和3年8月の大雨」「令和6年5月、11月の大雨」で大規模な山地災害が発生し、人命・建物・農林業関係に甚大な被害を及ぼしました。また、令和7年9月には最大1時間雨量が82mmの大雨が降り、人家裏斜面が崩壊する被害などが発生しました。

本県は、年間降水量が1,895mmと全国平均の1,662mmより多く、また離島・半島部を多く抱え狭隘な土地に集落等があり、山地災害が発生しやすい状況となっています。

こうした災害の未然防止と被害を最小限に抑えるためには、治山施設等の設置によるハード対策はもちろんですが、山地災害の発生に備え、県民の方々に災害の恐れがある地区がどこにあるか知っていただき、早期の避難に繋げることが必要となります。

農林業・農山村地域の暮らしと命を守る治山事業

治山事業とは、森林の維持造成を通じて、山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成を図る事業です。森林法に基づき、保安林に指定または指定見込みの森林についてその指定目的を達成するため、国の補助事業や県の単独事業により治山ダムの設置や森林整備などの事業を実施しています。これらの対策を実施することで、災害に強い、県民の暮らしと命を守る強靱な県土づくりを進めてまいります。

山地災害危険地区について

県では、地形や地質、植生等の条件を踏まえ、森林の状態を評価し、人家、道路等の公共施設に被害が及ぶおそれがある地区を「①山腹崩壊危険地区」、「②地すべり危険地区」、「③崩壊土砂流出危険地区」として判定し、県のホームページ「長崎県防災ポータル」の「防災GIS」※¹に掲載しています。

梅雨や台風の時期を前に危険な箇所がどこにあるのか、災害に備えて普段から家族や地域で危険地区や避難場所、避難経路について話し合うとともに、実際に自分の目で確認しておきましょう。

ただし、掲載されている危険地区については最新でない場合があります。あくまでも災害の危険がある地区を確認する際の参考としていただき、もし詳細を確認したい場合は、県農林部森林整備室森林土木班へご連絡をお願いいたします。

※1 長崎県防災ポータル 防災 GIS

<https://www.bousai.pref.nagasaki.jp>

(森林整備室 森林土木班)

自助・共助の意識を高めて減災！

災害を未然に防ぐために、自らを守る自助と周辺の方々と協力し合う共助による自主防災が、最も効果を発揮します。

山地災害はいつ起きるか分かりません。図2に示すような現象は、山地災害の兆候ですので、ご注意ください。

近隣の山林などで異変を感じたらすぐに避難しましょう。災害が起きたら、すぐに110番か119番に通報し、災害箇所には近づかないようにしましょう。



図1 山地災害危険地区のイメージ



図2 山地災害の危険信号の例



今回紹介するのは波佐見町議会議員・井石森の利活用研究会 城後 光さんです。

東京から波佐見町への移住

福岡県八女市出身の城後さんは、大学卒業後、東京で約10年間、インターネットを活用したバイク用品の販売に携わっていました。東日本大震災をきっかけに、「そろそろ九州へ戻ろう」と考え始めた頃、偶然出会ったのが波佐見町の人たちでした。

地域づくりに熱心な人との交流を通じ、年に5～6回も波佐見町を訪れるようになり、「ここで暮らしたい」という思いが次第に大きくなります。そして2016年に波佐見町へ移住。「町の環境と人に惹かれての移住でした」と振り返る城後さん。東京でパソコンに向かう毎日を送っていたからこそ、生まれ育った環境に近い、自然豊かな場所に住みたいという思いもありました。

山に入って見えてきたもの

移住したその年、周囲の方々に背中を押され町議会議員に初当選。さらに翌年には猟友会へ入り、狩猟免許を取得しました。現在もくくり罠や箱罠を設置し、有害鳥獣対策として年間を通じて山を歩いています。「もう9年近くになります。気付けば町のいろいろな山を歩いてきました。」

実際に山へ入るようになって感じたのは、外から見る印象と、中に入った時の景色はまったく違うということでした。

荒れて見える山でも、一步踏み込めば明るく開けた場所があり、少し手を加えるだけで、人が集える空間にも、生き物のすみかにも、木材資源にもなる。「山には、まだまだ活かせる価値がたくさんあります。」そんな実感が、森林整備への思いをより強くしていきました。

里山を、人が集う場所へ

以前から、「井石の山を何とかしたい」という思いを共有していた地域の仲間たち。その思いを形にしたのが、「井石森の利活用研究会」です。里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金を活用し、3年間にわたり里山整備を実施しました。

活動では、放置されていた雑木林の間伐や下草刈りを行い、鳥獣が隠れにくい環境づくりを進めるとともに、散策道整備や、資源活用として、間伐材を使った薪づくりも行いました。地域住民だけでなく、訪れる人も歩ける里山へと少しずつ姿を変えていきました。

活動メンバーは猟友会長や農業従事者など、それぞれ本業を持つ4人。農繁期との調整など苦労もあり、「暑くない時期に集まりたいけれど、その時期ほど皆が忙しい」と笑います。

それでも少しずつ整備を進める中で、イベントや森林散策を通じて地域外から訪れる人も増え、山が新たな交流の場になっていきました。



井石森の利活用研究会での整備の様子

森と焼き物をつなぐ、新しい未来へ

研究会では交付金事業終了後も活動を継続し、新たな活動地での里山整備を通じて地域の森林づくりに取り組んでいます。

一方で城後さんには、さらに大きな夢があります。それは、波佐見焼と森林資源を結び付けることです。波佐見焼の窯は現在ガスが主流ですが、昔は地域の木を燃料として焼き物を焼いていました。

「この町は焼き物の町であると同時に、森林の町でもあります。」

だからこそ、間伐材や木質バイオマスを焼成エネルギーとして活用できないか——そんな構想を温めています。

すでに他県では焼成に木質バイオマスを一部利用する取組も始まっており、「波佐見町でも、小さな窯元から挑戦できるのでは」と期待を寄せています。

また、森林整備についても、「完全なボランティアだけでは続かない」と話します。木材や薪、チップなど森林資源を活用し、少しでも収益が生まれる仕組みをつくることで、より多くの人が無理なく山に関われる環境をつくりたいと考えています。

「楽しみながら、少しだけ収入にもなる。そんな仕組みができれば、山に関わる人はもっと増えていくと思います。」

人との出会いが移住につながり、山との出会いが地域づくりへと広がった城後さん。その視線の先には、森林と焼き物、自然と暮らし、人と地域がゆるやかに繋がる新しい波佐見の未来が描かれています。

(NPO法人地域循環研究所)

林業普及だより

全農乾椎茸品評会 JAつしま団体準優勝!!

はじめに

対馬における原木しいたけ生産は江戸時代から続く伝統産業です。大陸から吹き付ける厳しい冬の季節風と乾燥した気候の中でじっくりと育成されることから、「厚肉どんこ」の産地として知られています。肉厚で歯ごたえが良く、豊かな香りとうま味を有することが特徴で、対馬の自然と伝統技術が生み出す希少価値の高い特産品として全国的にも高く評価されています。

このたび、その品質の高さが評価され、全農乾椎茸品評会において、JA つしま（長崎県）が団体準優勝を収めました。



全農乾椎茸品評会

全農乾椎茸品評会は国産原木乾しいたけの生産拡大と生産農家の経営安定を目的に、意欲の高揚と技術の研鑽、系統共販の拡大を図るために、毎年開催されています。

審査では形状、色沢、品質、香りなどが総合的に審査され、個人の表彰だけではなく、都道府県ごとの入賞状況や出品点数をもとに団体表彰も行われます。

審査結果

6月4日（木）に全農椎茸事業所入札場（埼玉県）にて審査会が行われました。出品物は箱物（86cm × 42cm × 48cm）に満杯詰めしたもので、全国14県から239点の出品があ

り、このうちJA つしま（長崎県）からは30点が出品されました。

239点の中から、入賞26点および奨励賞1点が選出され、長崎県からは全農会長賞を受賞した永尾賢一さん（花どんこ）をはじめ、6名が入賞しました。

また、団体の部においては全国準優勝という栄誉ある成績を収めることができました。これは平成25年以来の2度目の快挙であり、これまで積み重ねてきた技術と品質へのこだわりが高く評価された結果です。

入賞者一覧

賞名	氏名	規格	受賞回数
全農会長賞	永尾 賢一	花どんこ	5回目
（一財）日本きのこセンター理事長賞	原野 貢	こうしん中葉厚肉	2回目
（一財）日本きのこセンター理事長賞	吉田 永	こうしん中葉中肉	4回目
全農全和会長賞	扇 次男	こうしん中葉厚肉	2回目
全農全和会長賞	米田 常彦	こうしん中葉中肉	1回目
全農理事長賞	宮原 安典	上どんこ	1回目

おわりに

今回の受賞は、生産者の皆様が厳しい環境の中でも品質の高い原木しいたけ生産に真摯に取り組まれてきた成果の現れです。

対馬原木しいたけの持続的発展のためには、若手生産者の育成、原木供給体制の強化、販路の拡大等が重要となります。

今後とも対馬原木しいたけの更なる発展とブランド力の向上に向けて、対馬振興局としても生産者への支援体制の充実や情報提供に努めてまいります。



（対馬振興局 林業課）

地方だより

五島産材が支える地域づくり

はじめに

長崎県では、非住宅分野における県産材利用を促進するため、「ながさ木ウッドチェンジ事業」に取り組んでいます。今回、五島市の五島つばき蒸溜所では本事業を活用し、試飲などを行える新施設の整備が計画されています。施設には五島産材が使用される予定であり、地域の木を地域で活かす新たな取組として期待されています。

新しい取組

今回の取組の大きな特徴は、木材の伐採から製材、乾燥、品質確認、建築利用までを島内で行う点にあります。これまで建築用材は島外へ搬出して乾燥・加工した後に再び島へ搬入するケースがほとんどでしたが、今回は、島内で乾燥した木材を使用し、その品質確認まで実施したうえで建築用材として活用されます。



(従来の利用方法のイメージ)

五島産材の強度試験

木材の製材・乾燥が完了した後、長崎県農林技術開発センターの職員の指導のもと、建築に使用する木材の品質確認を目的とした強度試験が実施されました。試験には五島森林組合や関係機関が参加し、施設に使用予定の木材について品質や強度の確認を行いました。

建築用材の品質を保証する基準として JAS

(日本農林規格)がありますが、島内では JAS 認証工場がないことから、今回は木材の品質把握の参考とするため FFT アナライザを用いた非破壊試験を実施しました。FFT アナライザは、木材を打撃した際に生じる振動を解析し、木材を傷つけることなく強度や品質を推定できる測定機器です。試験では木材の固有振動数からヤング係数を算出し、品質や強度を確認しました。測定の結果、使用予定材は安定した品質を有していることが確認され、試験材は実際に施設の建設に使用される予定です。



(木材に衝撃をあたえ振動を計測)

おわりに

このように、地域の森林から生まれた木材を島内で加工し、品質確認を経て地域企業の施設に活用する今回の取組は「地産地消」の実現や、輸送コストの削減、環境負荷の低減にもつながります。林業と観光、ものづくりを結ぶ新たなモデルとしても注目されています。

県としても、五島産材の利用拡大や地域林業の活性化につながる取組として期待しており、今後も関係機関と連携しながら、地域材の利用促進を支援していきます。

(五島振興局 林務課)

地方だより

「木の駅たかき」10年間の取組について

はじめに

地域の未利用材を地域の活力につなげる「木の駅たかき」。平成 28 年度の開始以来、森林整備と地域活性化の両立を目指して活動が続けています。今回は、その 10 年間の歩みを紹介します。



取組の目的

この取組は、間伐時に規格外となり林地に残される未利用材（林地残材）を有効活用するものです。会員が未利用材を軽トラックで木の駅へ搬出すると、その買取代金が地域通貨「もり券」として支払われます。「もり券」は町内の加盟店で利用できるため、会員の所得向上と商店街の活性化の両方につながっています。

また、買い取られた未利用材は木質バイオマス発電の燃料として活用され、森林資源の有効利用にも役立っています。

取組の状況

取組開始初年度の平成 28 年度は 137t の未利用材が搬出され、翌 29 年度には 302t と大きく増加しました。その後も年間平均約 150t の搬出が続き、令和 7 年度までの累計搬出量は約 1,930t となっています。また、これまでに約 930 万円分のもり券が発行されました。

現在、もり券を利用できる地元商店は 30 店舗を超え、商店街の活性化にもつながっています。

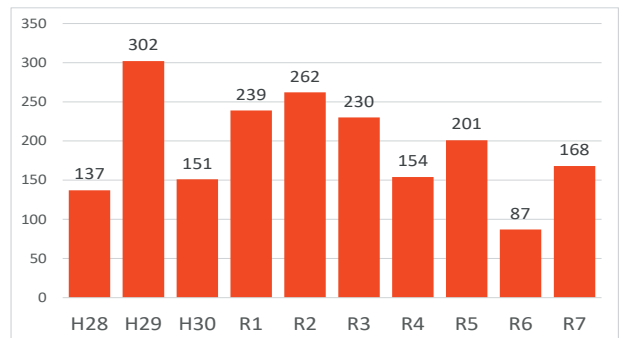


図) 木の駅への搬出量 (t / 年)

取組を通して

現在、実行委員長を務める原口氏は、「夏場の厳しい暑さの中で重い木材を軽トラックに積み込み、搬出する作業は体力的に大変だったが、もり券として地域に還元されることが励みとなり、続けてきてよかった」と振り返ります。今年度は 115t の未利用材搬出を予定しており、会員の高齢化や近年の猛暑への対応、積み込み・積降ろし作業の効率化など課題もありますが、今後も活動を継続していきたいとのことでした。地域資源を生かした取組への強い意欲が感じられました。



おわりに

この取組は、これまで利用されずにいた未利用材から新たな価値を生み出すとともに、商店街の活性化にも寄与しています。今後も活動が継続・発展していくよう、県央振興局も関係者の皆さんと連携しながら取り組んでまいります。

(県央振興局 林業課)

林業団体情報（長崎県林業協会）

林業事業体へ人材育成プログラムに基づく研修会を開催しました

はじめに

令和 8 年 6 月 26 日（金）と 7 月 10 日（金）に諫早文化会館で県内の林業事業体を対象に人材育成プログラムに基づく研修会を開催しました。

この研修会は、令和 4 年度に本県の林業人材育成の指針として「林業事業体および林業専門作業員育成プログラム」を県が策定し、これに基づき実施したものです。

その概要は、10 年後の将来像として「人材が集まり、定着する魅力ある林業事業体」の実現のために、すべての職員が経営ビジョンに基づき行動でき、経営に参画できる人材の育成を目指すものです。

人材育成マネジメント研修

6 月 26 日の研修は、事業体の管理者および経営層を対象に、適材適所による人材育成方法やキャリアアップ、やりがいの創出を通じて組織経営を担える人材育成がテーマとなりました。

講師は、森林創生コンサルオフィスの中ノ森氏と吉村氏による二部構成で、県内 4 事業体に対して丁寧でわかりやすい講義がなされました。

また、グループワークでは受講生の間で熱心な討議が行われ、お互いの組織についても理解が深まったようです。



（研修状況）

コーチング研修

7 月 10 日の研修は、勤続 5 ～ 10 年程度の中堅職員を対象とし、「傾聴」「質問」「承認」のスキルを身に付けることで、部下の持っている能力ややる気、強みを引き出そうとするものです。

講師は、株式会社インソースの平貞氏で、元消防士の経歴をお持ちで、熱い講義となりました。

7 事業体 8 名の受講生で、こちらの研修も上司・先輩と部下・後輩に役割分担してのグループワークが行われました。



（研修状況）

おわりに

ここ数年の林業就業希望者の傾向をみると、自然派志向による J ターンや I ターンが見受けられ、年齢層も 30 代や 40 代での転職を考えている方が増えているようです。

ただ、実際に就業してから 3 年後の定着率は低位で、職場環境の整備や労働安全対策は、今後の課題として依然残っています。

林業協会としては、国や県の委託事業による各種研修を実施することで、林業担い手育成対策の推進に努めていきたいと考えています。

（（一社）長崎県林業協会）

センターだより

画像診断によるアラゲキクラゲ白色突然変異体の色度評価手法

はじめに

アラゲキクラゲの白色系統は、国内産キノコの消費拡大を担う育種素材として期待されていますが、その「白さ」を客観的に評価する手法が確立されていませんでした。従来の色見本を用いた目視評価は、評価者によるばらつきが課題でした。そこで、生産者や購入者が容易に利用でき、かつ実用的な手法として、スマートフォン（iPhone）とフリーソフトを用いた評価手法を開発しました。

内容・成果

分析手順は図1に示すとおりです。スマートフォンとフリー解析ソフト（Fiji）を組み合わせることで、高価な機材を使わずに「白さ」を数値化できるようになっています。また、この方法では、人間の視覚特性に基づいた「CIE Lab 表色系（ $L^*a^*b^*$ 値）」を採用しているため、人間の目で見た時と同じ見え方で客観的な評価ができます（図2）。

写真の撮影方法は写真1、表1に示すとおりです。表1のとおり照明距離や位置などの撮影条件を厳密に固定して測定することで、 $L^*a^*b^*$ 値の標準偏差は1.00以下となり、高い精度を確保できます。

おわりに

今回はアラゲキクラゲの白色変異体を対象としていますが、本評価方法は色が商品価値にかかわる商品について汎用性がある方法になります。

当センターでは今後もキノコをはじめとした特用林産物の生産・加工・流通に役立つ情報を発信していきます。

（農林技術開発センター）

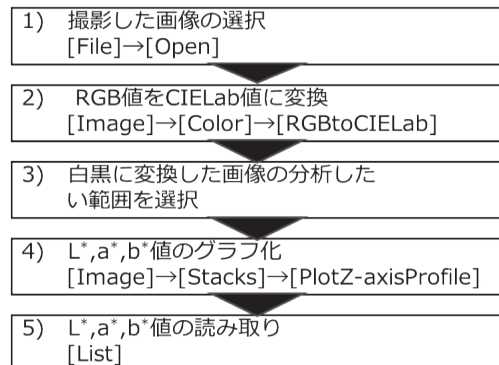


図1 分析手順

注) []内はソフトのメニューを示す

注) URL: <https://imagej.net/software/fiji/>, Release 2.17.0 使用

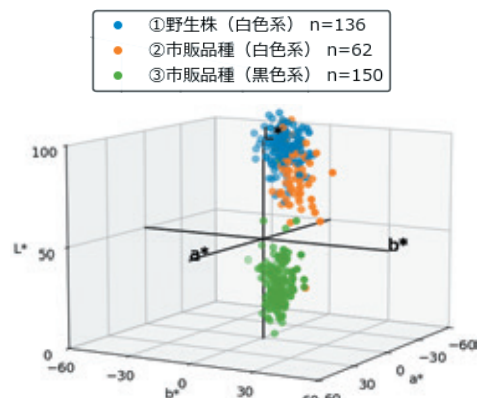


図2 系統間におけるCIE Lab空間上の分布プロット

注) ①野生株(白色系)はセンター所有株

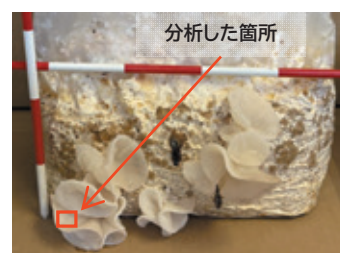


写真1 撮影状況

注) スケールバーは赤白5cm間隔

表1 撮影条件

条件	固定因子
機種	iPhone16
設定	オートモード(ホワイトバランスあり)
撮影環境	日が差し込まない北側の部屋で、毎回同じ時刻(9:30~10:30)に撮影
照明	蛍光灯は試料の直上、試料との距離を200cmに保持
撮影台	菌床の位置をマーキングし撮影距離は50cmとし、背景や反射条件を統一
カメラ角度	三脚で固定した位置から撮影

イベント情報

南島原イオンの里山「育樹祭」

令和8年11月28日（土）、南島原市南有馬町において、「南島原イオンの里山 育樹祭」が開催されます。この里山には、水源涵養や災害防止を目的として、南島原市がイオン環境財団と協働で、地域のボランティアの方々と共に、平成22年から平成24年までの3年間で20.5haに55,500本の広葉樹を植樹しています。その木々の成長を促すための育樹活動として、令和7年度より、枝切作業や下草刈り作業を行っており、今回が2回目となります。このような活動が評価され、令和8年6月30日、環境省より「自然共生サイト」に認定され、今後も生物多様性保全を推進する地域として活動が進められる計画となっています。



(昨年の育樹活動の様子)

申し込みはこちら（イオン環境財団 HP）⇒



(島原振興局 林務課)

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和8年8月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	17,300	普通	普通	普通
	16～18	小曲り	16,300	普通	普通	普通
	20～22	直	17,600	普通	普通	普通
	20～22	小曲り	16,700	普通	普通	普通
	24～28	直・小曲り	17,000 ～16,000	普通	普通	普通

【スギ】

令和8年8月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	15,000	少ない	多い	多い
	16～22	小曲り	13,000	少ない	多い	多い
	24～28	直	15,000	少ない	多い	多い
	24～28	小曲り	13,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

対話で巡る長崎の巨樹巨木

こうぶつ

高仏のタブノキ ～地域の歴史を見守る、個性豊かな巨樹～



高仏のタブノキ

【記者】：今回は、新上五島町にある「高仏のタブノキ」について、樹木医の久林さんにお話を伺います。まず、タブノキとはどんな木なのでしょうか？

【久林さん】：タブノキはクスノキと同じく暖かい地域に育つ照葉樹林の代表的な樹木です。海岸近くに多く見られ、新上五島町でもこの高仏地区と太田郷に大きなタブノキが残っています。

【記者】：このタブノキには、ほかとは違う特徴があるそうですね。

【久林さん】：はい。一般的なタブノキは一本の幹がまっすぐ伸びますが、この木は地際で二つに分かれ、さらに三本の支幹へと分岐しています。こうした樹形は珍しく、地元には一度伐採された後に萌芽したという言い伝えも残っています。

【記者】：樹冠の様子も特徴的ですね。

【久林さん】：支幹の先でも枝分かれが多く、小枝の伸びが短いのが特徴です。葉も一般的なタブノキより小ぶりですが、葉色や葉量は良く、樹勢はとても旺盛です。県内でも有数の幹周りを誇る巨樹で、樹冠は美しい球形を保っています。

【記者】：一方で、気になる点もあるとか。

【久林さん】：はい。幹にはアコウやツル植物が着生しています。特にアコウは成長すると他の木に巻き付き、やがて枯らしてしまうことから「絞め殺しの木」とも呼ばれます。このタブノキを守るためにも、早めの除去が望まれます。

【記者】：地域との関わりも深い木なんですね。

【久林さん】：この木のそばには海難者を吊う石碑が建てられ、かつてはしめ縄も巻かれていたそうです。古くから特別な木として大切にされてきたことがうかがえます。

【記者】：最後に、このタブノキの魅力をお願いします。

【久林さん】：独特の樹形や力強い生命力はもちろんですが、地域の歴史や人々の信仰とともに受け継がれてきたことが、この木の一番の魅力です。高仏を訪れた際には、その姿から土地の歴史にも思いを巡らせていただきたいですね。

所在地・基本情報

所在地：南松浦郡新上五島町荒川郷高仏

高：13m 幹周：7.3m（計測高 0.5m）

長崎の林業 9月号 第832号

編集・発行 長崎県林政課

住所：長崎県長崎市尾上町3番1号

電話：095-895-2988

ファクシミリ：095-895-2596